

メタボの人はそうでない人よりもお金がかかる!

医療費が年間 10 万円以上も大きい結果が明らかに。

ファイナンシャルプランナー 加藤梨里

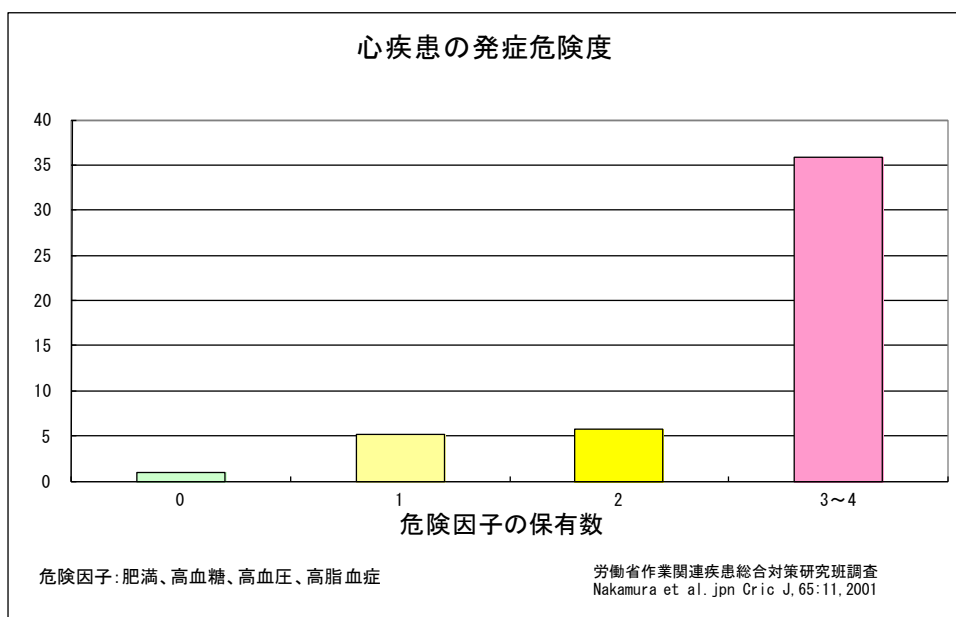
先日、厚生労働省から衝撃的な調査結果が発表されました。なんと**メタボリック症候群**の人の**医療費が、そうでない人よりも年8万～12万円も多い**というのです。医療費が多い直接の原因となった病名までは明らかにはなっていないものの、メタボリック症候群は生活習慣病に強い影響を与えることから、メタボによる病気で医療費が高くなった可能性が示唆されました。

そこで今回は、メタボリックシンドロームと医療費の関係について解説します。

■メタボリックシンドロームとは

メタボリックシンドロームは、内臓脂肪型の肥満によって高血糖、脂質異常、高血圧が引き起こされる状態のことです。食べ過ぎや運動不足など、悪い生活習慣の積み重ねが原因となって起こります。メタボリックシンドロームそのものは病気ではありませんが、高血糖、脂質異常、高血圧が重なると命にかかわる病気を招くこともあります。

グラフでは、心疾患を例に、メタボリックシンドロームの危険因子の数と病気の発症の危険度の関連を表しています。心臓病の場合、危険因子がない人の危険度を 1 とすると、危険因子を 1 つもっている場合は 5.1 倍、2 つもっている場合は 5.8 倍、3～4 個もっている場合では危険度はなんと 35.8 倍にもなることがわかります。



—コラムの無断転写・転載などを禁じます。—

Copyright©2012 Skirr Japan Corporation. All Rights Reserved.

出典：厚生労働省

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/metabo02/kiso/danger/index.html>

■病気になると医療費の負担も重くのしかかる！

厚生労働省の調査によると、メタボリックシンドロームの男性はそうでない人よりも40～49歳で医療費が年10万円程度多く、女性では70～74歳でメタボの人が9万円程度上回ったそうです。医療費の直接の原因となった病名までは明らかにはなっていないものの、メタボリックシンドロームが実際に生活習慣病を招き、医療費がかかる要因になった可能性が高いといえます。つまり、メタボリックシンドロームの人は、そうでない人に比べて医療費の出費が多くなる、ともいえるかもしれません。

では、メタボリックシンドロームの人が実際に負担した医療費の額はどれくらいなのでしょう？医療費の自己負担は、70歳未満は3割ですから、**実際に個人が負担するのはこの3割、つまり年間で3～5千円の負担増**ということになります。年間数千円なら、たいした負担ではないかもしれません。しかし注意しなければならないのは、これが生活習慣病であること。

生活習慣病は一度かかると長期間にわたり病気と付き合いながら暮らすことになります。また、今回の調査結果からも、メタボリックシンドロームの人とそうでない人の医療費の差は年齢にかかわらず生じていることから、メタボの人は一度医療費の負担が大きくなると、そのままずっと負担を続けなくてはならなくなる可能性があります。年数千円の負担を何十年もかかり続けると、合計で数十万、もしくはそれ以上の負担にもなるかもしれません。

また、生活習慣病は生活の質（QOL）を下げることを見逃せません。長期にわたる通院治療や服薬、食事制限といったことから、重症の場合には生活機能の低下や介護状態を招くこともあります。こうした病気と付き合いながらの生活と、経済的な負担の二重苦を背負って暮らしていくことは、誰にとっても楽ではないでしょう。

健康的な生活習慣を心がけることは、病気の予防だけでなく、医療費の負担を抑え、私たちの長い老後の生活にゆとりを与えてくれることにもなるのです。日々のライフスタイルをすぐに変えるのは難しいものですが、今日の暮らしぶりが将来の生活を健康面でも経済面でも左右すると考えると、おろそかにはできないですね。

—コラムの無断転写・転載などを禁じます。—

Copyright©2012 Skirr Japan Corporation. All Rights Reserved.